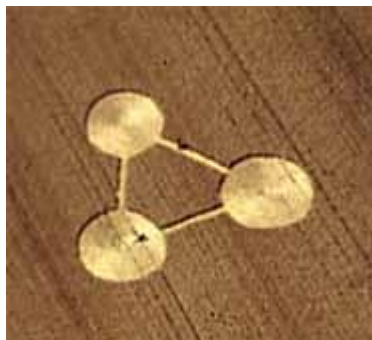


The Story Behind the CSETI Triangle Logo

Speech by [Shari Adamiak](#)

at the 1997 Crestone CSETI Ambassador to the Universe Training



©Busty Taylor

CSETI ロゴに秘められた物語

1997 年クレストン宇宙大使トレーニングにおける
[シャリ・アダミアク](#)のスピーチ

([CSETI のウェブサイトより](#))

CSETI ロゴはこうしてやってきた

皆様方の何人かは、この物語を聞いたことがあると思いますが、そうでない方もいらっしゃるかもしれません。これは本当に信じられないような話なのです。私は是非それを皆様方にお伝えしたいと思います。それは 1992 年、私たち CSETI（地球外知生体研究センター）が初めて英国へ旅行したときのことでした。私たちは夏のクロップサークル・シーズンに調査のため英国を訪れたのです。これは私たちにとり、初めてのクロップサークル体験でした。

最初の夜、私たちはその場所、ウッドボローヒルと呼ばれる丘の頂上にいました。そこは英国南西部のウィルトシャー州で最も標高の高い地点で、辺り一帯の多くの場所からこの丘を見ることができます。このウィルトシャー州は、ストーンヘンジ、エイヴベリー、シルベリーヒル、ロングバローなど、古代の聖地が点在している地区なのです。

私たちのチーム、それは少人数のグループでしたが、それがウッドボローヒルの頂上に集まりました。前にも言いましたように、英国の口コミ情報網といたら、私がそれまでに経験したことのないものでした。丘の頂上には 50 人から 60 人の人々がいましたが、私たちの小さなチームのようなものだったのでしょう。しばらくすると、彼らの大部分は離

ればなれになりました。実は私たちのチームには、コリン・アンドリュースとその同伴者たちが加わっていたのです。他にも英国人作家のピーター・ラッセル、研究者のリンダ・ハウなど、この夜に私たちを訪ねてきた幾人かの人々も一緒でした。

予め計画されたことは一つもなく、すべての物事がこの場所で展開していきました。私たちは名案を思いつきました。クロップサークルの出現に関与している存在者、それが誰であろうと、その存在者と意識的に接続することを試みることにしたのです。一つの実験として、私たちはある特定のパターンを思考投影し、それがクロップサークルとして出現するかどうかを試したいと考えました。私たちは思考投影ができそうないくつかの単純パターンを、あれこれ無造作に言い合いました。リンダ・ハウは、猫はどうかと言いました。そのようなパターンを思考投影できるのか、私たちには確信がありませんでした。話し合いが10分そこいら続いた後で、どうにかして私たちは結論を出しました。実は私は最初からそれを直感していましたし、スティーブン（グリア博士）もそうであったことを知っているのですが、それは三角形の形をしている必要があるというものでした。それで私たちは、一つの三角形といくつかの円の組み合わせを考えることにしました。その正確な形が決まるまでに数分を費やしました。三角形と円の組み合わせといっても、たくさんの異なった形がありますからね。このようにして私たちは、三角形のそれぞれの頂点に円を乗せた形を決めたのです。

私たちはCTS（Coherent Thought Sequence；グループが一致して実践する瞑想プロセス）に移行し、思考投影をしました。そして私たちの心をクロップサークルの制作者の心に接続し、そのイメージをできるだけ長く持続させました。このCTSは、少なくとも20分間続いたと思います。それを終えると、私たちは大きなライトを使って夜空に同じパターンを描きました。

その後、私たちはこれといった当てもなく他のクロップサークルを訪れたり、自分たちの調査をしたりしながら、あちらこちらと動き回りました。それから2日後の朝、私たちはカーソン家の農場を訪れていました。カーソン家はこの古代の聖なる丘のある場所に、立派な館が建つ土地を所有していました。エイボン川の川筋も、ちょうどこの丘の麓を通っています。私たちは、この地所を実際に所有する家族の一員であるポリー・カーソンを訪ねました。前夜に起きた驚くべき出来事について彼女に話すためでした（そのクライマックスは4人のメンバーによる150フィートの宇宙機の目撃でした）。ポリー・カーソン宅にはクロップサークル研究者のラルフ・ノイズが訪ねてきており、彼女と一緒にいました。彼はやや年配の白髪紳士で、1980年代中頃に経験したウォーミンスター目撃事件以来、UFO問題にも関わっています。スティーブンと私が入っていくと、彼はそこにいてクロップサークルについて話していました。彼はこう言いました：“やあ、私たちは新しく出現した素晴らしいクロップサークルを見てきたばかりです”

この1992年という年ですが、マイケル・コロストに率いられたグループがここにきていました。彼らは、基本的にはビゲローが資金提供しているMUFON（相互UFOネットワ

ーク) のチームで、その目的はクロップサークルを調査し、科学的手法でサンプルを採取し、それを分析のために研究所に送ることでした。ラルフ・ノイズは彼らと共に働いていたのです。

ラルフ・ノイズはこう言いました：“私たちはとても信じられないようなクロップサークルを見てきたばかりです。今年になって見た中では、最も完璧なものです” 私たちは“うわー、すごいですね、本当ですか” と言いました。彼はこう言いました：“ここからもかなり近いですよ。直線距離にして 5, 6 マイルでしょうか、ロードウェイと呼ばれる場所です。そこはオリバースキャッスルと呼ばれる大きな陸塊の麓にあります” 英国でキャッスルと呼ばれる陸塊は、幅狭く盛り上がり、谷を見下ろす大きな高台です。

私たちは訊きました：“どのような形でしたか？” 彼はノートの中の 1 枚の絵を見せました。そこにはあの三角形と 3 個の円が描かれていたのです。私たちがどれほど驚いたか、皆様には想像できないでしょう。彼が言うには、その日彼らはそのクロップサークルの中にいました。その農場主と話をしたとき、農場主はそのクロップサークルが実際には 2 日前の夜に出現したと語ったそうです。このクロップサークルは、私たちがいた丘から直接見える場所にあり、直線距離で 5, 6 マイルも離れていませんでした。それで私たちは我を忘れて、これを見に行くことにしたのです。こうして私たちは、それがある場所まで行く道順を教えてくださいました。ラルフ・ノイズは、オリバースキャッスルに上ってそれを真上から見るようにと言いました。

スティーブンと私、それに他の CSETI メンバーも加わり、私たちはそこに行きました。草に覆われた、この素敵な小道を歩いていったのです。まるで空中を歩いているようでした。というのは、私たちが歩いた道はこの美しい高台の上にあって、眼下には農地の見事なパッチワークが広がっていたからです。歩き続けるうちに、突然私たちはそれが見える場所に着きました。クロップサークルはそこにありました。陽光の中できらきらと輝き、私たちが思考投影したものと正確に一致していました。寸分も違わない形でした。そのときの私の気持ちをどう表現してよいのかわかりません。私の人生であのような気持ちになったことは、一度もありませんでした。そのときまでに自分が経験した最も素晴らしく、喜びに満ちたつながりの感覚、意識の一体性、そのようなものでした。私たちは涙ぐんでいました。それは喜びの涙でした。皆茫然としていました。こうして、このクロップサークルが CSETI のロゴになったのです。

英国から戻り、私たちはジェラルド・ホーキンスという名前の人物がいることを知りました。彼はクロップサークルに関する理論を書いた、ボストン地区のどこかの教授だったと思います。実際に彼は 1992 年 1 月、ある週刊科学雑誌に論文を発表しました。高い評価を受けている、専門家による論文審査のある雑誌です。その中で彼は、クロップサークルに関係すると彼自身が考えている幾何学的定理について発表しました。私たちは知らなかったのですが、ジェラルド・ホーキンスはコリン・アンドリュースに宛てた私信の中で、このクロップサークルを見にいったことを述べています。それは彼の未発表であった 3 番

目の幾何学的定理を証明していました - 彼によれば、そのクロープサークルは調査する必要さえないほど正確なもので、インチ単位またはその数分の一ほどの正確さをもって、この幾何学的定理を証明していたそうです。

クロープサークルといえば、皆様はこの美しいデザインを目にします。しかし断言しますが、もし皆様がその中にいたら、その全体の形がどのようなものかを理解することは殆ど不可能です。なぜなら、それははるか上方から見るようにつくられたものだからです。この麦という、手に負えない表現手段の中にあるのです。それは必ずしも正確な表現手段とはいえません。腿または腰の丈のある麦畑の中で、調査する必要もないほど正確なクロープサークルがこの定理を証明していたのです。興味深いことをお話ししましょう。私たちがラルフ・ノイズと話をしたとき、彼はそれがその年に見た最も重要なクロープサークルだったと言いました。その場所にいたこのグループ、ビゲローの資金で MUFON のために働いていたこのグループは、彼らの報告書の中でこのクロープサークルのことにまったく触れませんでした。

グリア博士が割って入る： 興味深いことですが、細胞の変化を見ていたレブングッド博士によれば、あのクロープサークルは最も明白な客観的に科学的な変化を示していました。それはあのシーズンのどのクロープサークルにも発生した特異な種類のエネルギー場と合致するものでした。彼らがこの法外に金のかかった報告書、1992 年のシーズンについての報告書ですが、それを公表したときに、この出来事のすべてが取り除かれたのです。彼らは CSETI が遠隔視をし、誘導し、思考投影をしたことを知って、それをデータベースに入れることを望まず、取り除いたのです。今日に至るも、どこのどの雑誌にもこのクロープサークルは掲載されていません。このクロープサークルについてもう一つ興味深いことですが、それが出現したとき、それは私たちが野外にいたあの夜の早朝未明に農場主により発見されました。私たちは 2 日後までそのことを知りませんでした。このクロープサークルが存在することを私たちが知ったのは、直径 150 フィートの宇宙機がほとんど着陸の状態で見撃された夜の翌朝でした。ですから、私たちがこれについて知るに至ったことさえ、すべては驚くべき一連の出来事だったのです。

シャリ・アダミアク： 今年になってもあれが悪ふざけだったと主張する人は一人もいません。あれから 5 年も経つのにです。

筆記： T・ローダー

編集： S・アダミアク

(訳： 廣瀬 保雄)